

＝ 2013 年度 J S C A 中部支部総会報告 ＝

2013年度JSCA中部支部総会が5月17日(木)、名古屋千種区のルブラ王山にて開催され、出席者50名・委任状228名の計278名により、本総会は成立しました。審議に先立ち、議長に大成建設の加藤芳明氏を選出し、下記の議案を審議いたしました。

- 議案1：2012年度支部事業報告の件
- 議案2：2012年度支部収支決算の件
- 議案3：支部役員改選の件
- 議案4：2013年度支部事業計画の件
- 議案5：2013年度支部収支予算の件

各議案とも慎重審議の結果、満場一致で承認されました。本年度支部事業計画の議案4に関しては、総会に出席されなかった会員諸氏にその骨子を報告いたします。

昨年度の中部支部の活動としては、定期的な活動として、各委員会や静岡・岐阜・三重・北陸の各部会および若手技術者育成のための講習会が開催され、充実した研鑽の場が提供されました。さらに、構造デザイン発表会においては、若手技術者により創造性豊かな設計内容と自信に満ち溢れる作品の発表が行われました。これは、今後も継続して取り組んでいきたい活動の1つです。愛知県等の各行政機関との活動については、懇談会の開催、耐震相談窓口、行政主催の活動への協力等が推進されています。また、久しく更新のなかった支部ホームページも刷新され、今後さらなる情報交換の場として内容の充実をはかっていきます。

次に、本年度の活動についてですが、その骨子は、昨年度の活動方針を踏襲しますが、技術交流会および賛助会会員の皆様の協力と建築学会の先生方や行政および他団体の方々からのご指導を頂きながら、支部会員にとって役に立つ活動と社会に貢献できる活動を推進していきます。また、若手を中心とした活動部会の発足と軌道にのりつつある「若手構造設計者向けの講習会」等を通じて将来の支部活動を担う会員の育成を推進していきます。

以上を踏まえ、2013年度は以下の内容を重点活動項目とします。

- 1) 会員の交流の場を積極的に設ける
- 2) 構造設計者の処遇改善支援
- 3) 地域の構造設計者育成事業への参画
- 4) 将来のJSCA構造設計者の育成

総会終了後の第2部では、京都大学の渡邊史夫名誉教授をお招きし、「コンクリート構造の原理と発展」と題して、約2時間にわたり記念講演を戴きました。



ご講演をされる渡邊京大名誉教授

以下に概要を記述します。

- ・建築は技術のみでなく、様々な条件、特に人間や社会や経済活動といった、最も定式化が困難な因子をかかえながら、最適なものを造り出すという点において、「ハイテク」であり、大いに自負できる。五重の塔はその代表である。
- ・鉄筋コンクリートの極意として、単位水量を減らし、締め固め養生を確実に行う。せん断補強筋は端部をしっかり定着し、十分な量を配置する。曲げ材の引張軸鉄筋は不必要にたくさん配筋せず、コンクリート強度を高くして、引張軸降伏を先行させる。柱梁の接合部、部材の接合部は強固に接合する。必要なかぶり厚さは確実に確保する。
- ・弾性的に挙動する高強度鉄筋と塑性化する低強度鉄筋を混在させ、復元力特性が常に正の勾配を持つとともに、エネルギー消費も行う柱の開発を行った。
- ・技術者の倫理は個人、企業、利益、企業繁栄、愛社精神など、多くの要因が重なりあっており、複雑である。

記念講演の後、引き続き催された懇親会には、来賓、正会員、賛助会員等多くの方々に参加していただきました。宿里支部長の挨拶、ご来賓の方々のご祝辞の後、本日記念講演を賜りました渡邊名誉教授のご発声で乾杯し、和やかなうちに閉会となりました。

最後に、本総会の開催にあたり多大なご尽力をいただいた事業委員会各位にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

(文責 広報委員会)

～～ 事務局移転のお知らせ ～～ (平成 25 年 6 月 1 日より、下記に移転しました)

〒461-0004 名古屋市東区葵 1-25-1 ニッシンビル 204 号 (株)飯島建築事務所内

TEL:052-325-4751 FAX:052-325-4752

E Mail:jimu@jsca-chubu.com ※アドレスの変更はありません

森 隆寿(もり たかひさ)

架構形式は、桁行方向に曲げ加工した318.5φの鋼管に対し、ライズの異なる鉄骨アーチ梁（BT-200 x 100）を1.8m間隔で梁間に掛け渡し、それらを斜材（BT-150 x 100）でつないだ一片約2mのトラスシェルである（図4、5）。張間方向に発生するスラストは、テンションロッドで処理し（図4、5）、ピン支承とローラー支承にて2棟間に支持する。可動寸法は両棟1/100の逆位相時変形を想定し400mmを確保している（図3）。地震荷重は水平震度1.0Gにて許容応力度以内、風荷重は速度圧を再現期間100年の設計風速より1100N/m²、風力係数は風洞実験の値を用い西先端部で最大4.53である。屋根を支持するブラケット部においては、最大鉛直力約400kNと水平力約600kNが生じるため、BOX梁とした。各節点において斜めに取り合うガセットプレートは、工場での溶接性を考慮してウェブに直角となるように曲げ、応力集中部は補強リブプレートを配した（図6）。

鋼管でなく、エッジのあるT型部材を用い、サッシュと一体化したディティールによりシャープさを際立たせることに成功した。（写真3、4）

4.施工管理

仕上げ材が直接取付く構造部材は、主となる54本のアーチ部材が全て異なる角度で傾斜し、支持点高さも異なる。

そのため施工手順による立体的な精度の確保が最重要課題であった。実施工に先立ち、現場事務所前にて事前の先行施工を行った（写真2）。主目的は専用治具、鉄骨、サッシュ、ガラス全てのディティール確認などである。関係工種全員で知恵を出し合い改善し実施工に挑んだ。また、構造・仕上材すべてを3次元CAD化し、施工時解析、専用治具開発などを行っている。

5.おわりに

施工難易度が高いこのようなダイナミックな架構は創り上げていく過程も美しい。二度と見ることのできない光景を見逃さないように現場に足を運んだ。完成した喜びの一方、地震や強風の度に不安になるのは構造設計者の宿命か。

この度、構造設計の機会を与えていただいた愛知大学様、施工に携われ尽力していただいた竹中工務店作業所員・技術部の皆様始め、関係工種の皆様に感謝します。設計の意図の通り、この愛知大学ささしまキャンパスが賑わいの核となることを期待します。

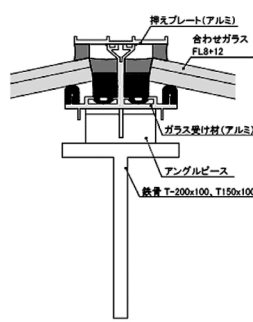


図2 仕上材取合い詳細図

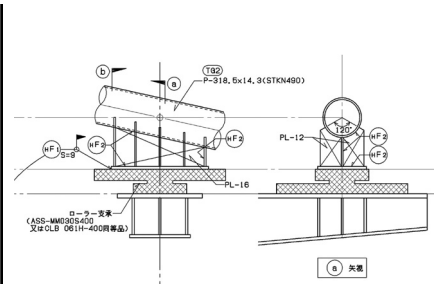


図3 ローラー支承部詳細図

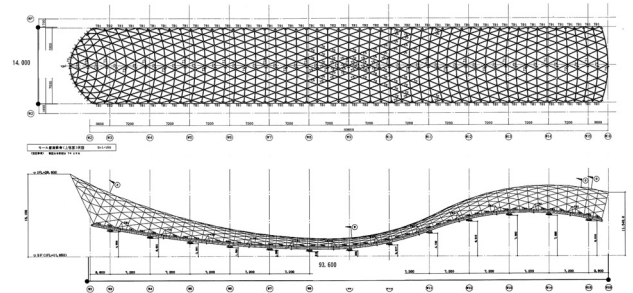


図4 キャンパスモール屋根伏図、軸組図

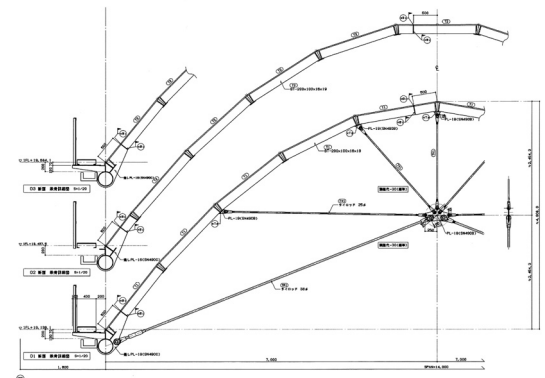


図5 キャンパスモール屋根鉄骨詳細図

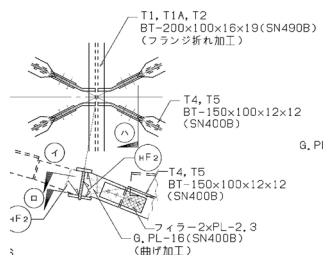


図6 接合部詳細図



写真2 先行仮組施工



写真3 西端部屋根見上げ



写真4 屋根上面夜景

技術委員会 平成25年度活動方針

技術委員長 二宮 利治

技術委員長を務めさせていただき
ます二宮でございます。

今期で3期目となりますが、会員
の皆様のご指導により何とか務める
ことができ、心より感謝いたします。

昨年の技術委員会は、「構造技術
者としての技術の研鑽」をメイン
テーマとし、下記の4項目を基本方
針として活動を行いました。

1. 講習会・見学会の実施
2. 学会会員との交流
3. 建築行政関係者との交流
4. JSCA活動のPR

計画部会、鉄鋼系部会、コンクリート系部会、地盤系
部会、木質系部会の各部会における勉強会の他、「豊田
佐助邸で使用される筋違等の加力実験」（名古屋大学古
川研究室、木質系部会）見学会や第1回「中部支部構造
デザイン発表会」（計画部会）の開催、岐阜部会の企画
を受け継ぐ形で実施した大手前大学メディア・芸術学部
の田淵先生の講義「今一度、溶接入熱・パス間温度を考
える」など、新たな企画にも取り組みました。



今年の活動も、前述の基本方針の下、各部会を中心に
活発な地方部会との連携を踏まえた見学会・講習会の開
催、学識経験者、行政担当者との交流を盛んにし、成果
を発信してゆきたいと考えています。

既に鉄鋼系部会では、前述の田淵先生の講義を3回開
催する予定で準備を進めています。また、第2回「中部
支部構造デザイン発表会」（計画部会）もこの号が配布
されるまでには実施されていると思います。

一方、建築構造に関する最近の話題では、5月に耐震
改修促進法が改正されて、一定規模の特定建築物に対す
る耐震診断が義務化され、また、少し遅れていますが、
天井脱落対策を目的とした天井の構造方法に関する告示
が公布される見通しとなっています。さらに、国土交通
省の長周期地震動対策に関しても法制化の準備が進みつ
つある模様で、建築構造技術者としてはその存在意義が
問われるとともに、良い仕事をして存在感をアピールす
る絶好の機会が訪れようとしています。

以上のような状況を鑑み、技術委員会では、3. 1 1
の震災の教訓から来るべき南海トラフを震源とする巨大
地震に対する準備は大丈夫か、何が準備できていて何が
足りないか、などを会員の皆様と考えて足りないものを
準備してゆくことも重要な仕事と考えています。

本年もご指導のほどよろしくお願いいたします。

事業委員会 平成25年度活動方針

事業委員長 池尾 昭浩

JSCA中部支部事業委員長の池尾昭
浩です。よろしくお願いします。

本年度も昨年度同様、JSCA庭をは
じめ、見学会・研修会等を事業委員
会の力を合わせて行っていきたく
と思います。

昨年度は、10月にJSCA庭を行い、
大勢の参加希望者があり今後も皆
様の期待に応えられるような魅力ある企画を考えていき
たいと思います。また、講演終了後に行った懇親会では講
師の方を中心に講演の時には聞けなかった話を伺ったり、
参加者の方々のコミュニケーションを図る場として活用
して頂いていると思っています。

見学会につきましては、本年度6月に「やわらぎ森の
スタジアム」の現場見学会を行いました。設計を担当さ
れた方・現場を担当されている方のお話を聞きながらの
見学会は大変有意義だと思います。また、活発な質疑応
答が有りました。見学会につきましてはその性格上、地
域と時期を限定されるため、なかなか多くを開催できま
せんがこの地域にある興味有る建物を探して随時行っ
ていきたいと思っています。



講習会等は、本年2月に「若手構造技術者を対象にし
た育成講座」を開催しました。この講座は今回が2回目
であり、開催するに当たっては事業委員の実行委員の努
力とクライアント・インストラクター役のJSCA中部支
部の諸先輩の方々の協力により参加者はもとより参加者
の所属事務所の方々からも大変好評をいただきました。

本講座につきましては今後もJSCA中部の年間行事の
柱となるよう継続して開催したいと考えております。

その他、講習会等につきましては、タイムリーな話題
を模索し、より多くの方々に参加していただけるような
企画をしていきたいと思っています。

また、毎年行われる年次総会・新年互礼会での講演会
では、普段の実務に直結した話題から構造とは離れたい
つもは接しないような話題までいろいろと興味を引く講
演会を行っていきたくと思っています。

事業委員会で行う行事を一層魅力有るものとするため
には、会員の皆様のご意見を伺っていくことが大切なこ
とだと思っています。

多くの方々にご参加頂ける行事を数多く開催できるよ
うにしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

広報委員会 平成25年度活動方針

広報委員長 土田 崇仁

今年度より広報委員長を務めさせていただく土田崇仁です。突然の大役をいただき不安もありますが、精一杯努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



昨年は、大橋前委員長のもと、広報誌「JSCA中部」の発行と、ホームページの再構築・運営を中心に活動してきました。今年もこれら2つの活動を軸として取り組んでいきたいと思っています。

1. 広報誌「JSCA中部」の発行

広報誌「JSCA中部」は年4回発行され、各委員会の活動、設計例、現場紹介、講習会・見学会、各種イベントなど多岐にわたる話題の報告が主な内容となりますが、これらの原稿は会員の方々へ都度お願いしており、ボランティア活動の成果そのものです。お忙しい中、快く執筆を受けてくださった会員の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、広報誌の円滑な運営のため、技術交流会・賛助会の皆様には、厳しい経済状況にもかかわらず広報協賛のご支援をいただいております。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

1985年に発行された「構造懇中部」第1号に端を発し、その後1989年に第1号が発行された「JSCA中部」は、本号で96号を数えるに至りました。間近に控えた100号は、記念号にふさわしい特集を企画したいと思っています。

2. ホームページの運営

中部支部のホームページは、久しく更新できていなかったため、永らく皆様にはご不便をおかけして大変申し訳ありませんでした。数年前より刷新作業に着手し、今年2月に第1弾のリニューアルオープンをすることができました。今年は、各委員会・部会・技術交流会の皆様の協力をご頂きながら、活動状況や講習会・見学会などの企画等、会員の皆様に有益な情報をよりタイムリーに発信できるように改善していく予定です。また、これまで課題となっていた継続的なHPの更新にも取り組んでいきたいと思っています。

今後、さらに親しまれる広報誌・HPを目指して、内容の充実を図っていききたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。会員の皆様の忌憚のないご意見を、広報委員会または事務局までお寄せください。

耐震診断・行政懇談会 平成25年度活動方針

耐震診断・行政懇談会担当 小川 浩信

本年度より行政耐震を担当することになりました(株)伊藤建築設計事務所の小川です。思い起こせば15年ほど前に行政・耐震診断委員会の委員をしていたことがありました。当時は委員会組織で10名ほどの委員がいました。耐震診断が今ほど普及しておらず、行政からの診断業務をJSCA中部が一括で受託し、会員事務所に診断をお願いして委員会レビューを経て報告書を提出することをしていましたが、私が入ってから1,2年で業務依頼も無くなりました。行政・耐震診断委員会のもう一つの大きなイベントは「行政懇談会」の開催でした。愛知県、名古屋市の建築関係部局の方々との懇談の場を設け、当時は公然の秘密であった構造審査の「内規」に関して、JSCAとしての意見、お願いなどを話し合いました。この「行政懇談会」は現在も毎年開催されており、愛知県、名古屋市に加え、(一財)愛知県建築住宅センターの方もお招きし、JSCA中部役員と合わせて総勢30名ほどの会合となっています。発会当時はJSCAからの話題提供がほとんどで、行政サイドは洪々話を聞いていた感がありますが、近年では姉齒事件を契機に行政サイドからの積極的な話題提供が多くなり、活発・有意義な会合となっています。

本年度も8月頃に「行政懇談会」を開催する予定です。委員会組織である必要性が薄くなったこともあり、現在では幹事1名が担当する行政耐震担当という名称に変わりましたが、建築行政・耐震診断に関するご意見等がございましたら、是非、中部事務局までお寄せください。

「今一度、溶接入熱・パス間温度を考える」参加報告

JSCA鉄鋼系部会 (株)日建設計 杉浦 盛基

2013年4月20日(土)にJSCA中部支部鉄鋼系部会および岐阜部会の主催で大手前大学メディア・芸術学部の田渕先生をお招きし、「今一度、溶接入熱・パス間温度を考える」をテーマとした講義が開催されました。本講習会のテーマは構造設計に携わる者にとっても、ファブリケータの方にとっても関心が高く、当日は土曜日にもかかわらず大変盛況で、設計事務所、ゼネコンの構造設計者、ファブリケータ、建材メーカーの方々、建築確認審査機関の方々、合わせて凡そ80名の参加がありました。

平成12年に出示された告示1464号で、溶接金属の性能が規定され、その後1794号に盛り込まれなかったものの、入熱・パス間温度の管理の重要性も注目されました。入熱・パス間温度が溶接部の靱性能や強度に影響を及ぼすことは理解していても、どのように影響を及ぼし、どの程度の影響があるのかといったところまでの解説を聞く機会は少ないため、多くの方々が参加されました。

講義では、まず、「入熱を30KJ/cmで管理する予定であったが、ある層の入熱が40KJ/cmになっていた→どうしよう!!!」「パス間温度を250℃で管理する予定だったが、ある層の管理値が300℃になっていた→どうしよう!!!」「そもそも、何故パス間温度の管理は開先肩から10mmなんですか?」という投げかけから始まりました。これらの投げかけに答えるように、研究の背景から、実験の内容、金属の性質、溶接積層方法の重要性、推定式の提案に至るまで、丁寧にわかりやすく講義いただきました。研究の背景では、兵庫県南部地震での柱梁溶接接合部の被害や、原因の一つとしては溶接施工方法にあったこと、また、溶接積層方法が梁の塑性変形能力に与える影響についての説明がありました。その後、入熱量・パス間温度の定義、溶接金属の冷却時間の定義、ショートビードの影響、通しダイヤフラム形式角形鋼管柱梁溶接接合部の多くの実験から導かれた溶接積層方法の重要性、溶接金属の強度に対する溶接金属の冷却時間と化学成分の影響、溶接金属の強度推定式について、自らされた実験や文献などで確認された内容を説明いただきました。実際に実験をしたり、手を動かして、納得できたものしか信用していないとおっしゃられた言葉が印象的でした。また、実際にワイヤのミルシートと入熱・パス間温度の値を用いて、溶接金属強度を推定する実習も用意いただきました。

講義後、ファブリケータの方々から事前に出されていた質問に丁寧にご回答いただきました。質問としては、コラムの柱の場合の入熱・パス間温度の管理の仕方や、

示温塗料での管理、溶接入熱・パス間温度管理の提出書類といった内容でした。質問に対し、田渕先生より、コラムの柱の入熱・パス間温度の管理については、管理すべき部位とそうでない部位は判断すべきで、塑性化しない部位や横向き溶接であれば、神経質になる必要はないとの見解をいただきました。示温塗料での管理については、示温塗料は管理するための1つの方法であり、目安として用いるのであれば問題ないが、絶対的なものではないと考えられ、あくまでもプロセス管理が重要であるとの見解をいただきました。溶接入熱・パス間温度管理の書類提出に関しては、あくまでも入熱・パス間温度管理はプロセス管理であり、要求する側にきちんと説明するしかないとの見解をいただきました。

入熱の管理、パス間温度の管理についての必要性は理解しているものの、その数字の持つ意味やなぜそのように決まっているかまでの理解には至っていませんでした。今回の講義においてこれらを理解することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、今回ご講義いただきました田渕先生に深く感謝申し上げます。



講習会の様子



田渕先生のご説明の様子

「一条タワー金山」現場見学会報告

JSCA中部・計画部会 名古屋菱重興産株式会社 毛利 美帆

計画部会では、4月19日(金)に一条タワー金山の見学会を開催しました。本建物は免震構造21階建てRC造、延床12,500㎡余のマンションです。当日はお天気も良く、19名が参加しました。

以下に、この工事に関わっている会社をご紹介します。

事業主・売主 (株)一条工務店

設計・監理 浅井謙建築研究所(株)、徳倉建設一級建築士事務所

構造設計 (株)飯島建築事務所、徳倉建設一級建築士事務所

施工 徳倉建設(株)

まず、徳倉建設(株)建築設計部長の本多幸雄様に「設計変更に至るまでの経過」をご説明頂きました。本建物はH22年12月初めに着工し、杭施工完了後のH23年3月11日に東日本大震災が起きました。その後、施主から強い要望があり、耐震余裕度1.25倍、1.5倍、1.8倍の3つの案を提案し、最終的には1.25倍を採用しました。もちろん構造性能評価、大臣認定もやり直したので、工事を再開したのはH24年1月末とのことでした。

次に「免震層設計と大臣認定」について(株)飯島建築事務所の金子慶一様にご説明頂きました。この建物で使われている免震装置は、①天然ゴム系積層ゴム支承1400φ4台(ブリヂストン)、②鉛プラグ挿入型積層ゴム支承1400φ4台(免制震デバイス)、③弾性すべり支承1500□3台(オイレス工業)、④キ型直動転がり支承4台(免制震デバイス)、⑤減衰こま4台(免制震デバイス)の5種類で、特に③は世界最大級の大きさとのことでした。

最後に施工について徳倉建設(株)現場所長の加藤洋樹様に説明して頂きました。「想定外を想定しろ!」というスローガンのもとに、建築主・設計・施工で協力して設計変更に対応してきたそうです。既に免震装置は発注済みで、その対応にも苦労したとお話しされていました。

現場見学では、まずは免震層に下りて免震装置を見ました。装置が大きいので、免震層の階高はかなり高かったです。その後、上部階で躯体が見られる所を案内していただきました。躯体重量軽減の為、壁はALC、階段は鉄骨となっていました。建物の平面形状が楕円で梁位置と壁位置が一致しないため、納めるのが大変とのことでした。

若手からベテランまで活発に質疑応答が行われ、大変有意義な見学会となりました。ご協力頂いた工事関係者の皆様に御礼申し上げます。



構造設計者による説明の様子



現場見学の様子

ADC 免制震デバイス社の

転がり免震装置

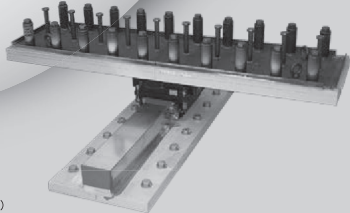
転がり抵抗の摩擦係数はおよそ5/1000、アイススケート並みです。

装置に引抜き力が働く

超高層建物、塔状建物に利用可能。

CLB 直動転がり支承
Cross Linear Bearing

国土交通大臣認定番号(免震材料) MVBR-0372,0373,0374(十字型)
MVBR-0268,0269,0383(牛型、CLB-T) MVBR-0271,0272,0382(井型、CLB-F)



ADC

Aseismic Devices Co., Ltd.

株式会社 免制震デバイス

<http://www.adc21.co.jp>

【本社】〒102-0075 東京都千代田区三番町6番26号

住友不動産三番町ビル5階 TEL:03-3221-3741

【技術センター】〒329-0432 栃木県下野市仁良川1726

中部支部 平成25年度組織構成

支部役員会

本会理事 宿里 勝信 (名城大学)
 支部長 宿里 勝信 (名城大学)
 副支部長 石井 和彦 (日総建)
 山崎 暢 (清水建設)
 支部幹事 池尾 昭浩 (池尾設計事務所)
 石原 清孝 (竹中工務店)
 加藤 芳明 (大成建設)
 小川 浩信 (伊藤建築設計事務所)
 小田 一之 (O.D.A)
 河野 秀生 (大林組)
 二宮 利治 (日建設計)
 羽入田 茂 (鹿島建設)
 芝川 豊 (ジーツープラン)
 藤原 哲弘 (藤原構造建築設計事務所)
 杉山 清久 (北電技術コンサルタント)
 永田 芳博 (永田構造デザイン)
 支部監査 伊東 正 (竹中工務店)
 服部 明人
 顧問 藤田 良能 (飯島建築事務所)
 事務局 森 隆寿 (飯島建築事務所)
 小川 浩信 (伊藤建築設計事務所)
 土田 崇仁 (伊藤建築設計事務所)
 下野 耕一 (竹中工務店)
 槽谷 裕一 (九尺設計)

技術交流会

会長 中西 広始 (縣鉄工)
 副会長 川畑 久輝 (フジモリ産業)
 同上 前原 勝明 (旭化成建材)

技術委員会

委員長 二宮 利治 (日建設計)

計画部会

主 査 盛本 智夫 (盛本構造設計事務所)

鉄鋼系部会

主 査 杉浦 盛基 (日建設計)

コンクリート系部会

主 査 牧野 章文 (竹中工務店)

地盤系部会

主 査 河野 秀生 (大林組)

木質系部会

主 査 中野 稔久 (中野建築構造設計)

耐震診断・行政懇談会担当

担 当 小川 浩信 (伊藤建築設計事務所)

青年部会

主 査 杉山 映 (伊藤建築設計事務所)

事業委員会

委員長 池尾 昭浩 (池尾設計事務所)
 委員 伊東 正 (竹中工務店)
 大野 勝由 (野口建築事務所)
 川端 憲敏 (建物蔵部)
 斎藤 正 (三菱地所設計)
 下野 耕一 (竹中工務店)
 七瀬谷 茂 (ストラクチャー・ナナ)
 橋本 幸治 (日建設計)
 盛本 智夫 (盛本構造設計事務所)
 山崎 暢 (清水建設)
 山本 享明 (名古屋女子大学)
 吉橋 秀和 (大林組)

広報委員会

委員長 土田 崇仁 (伊藤建築設計事務所)
 副委員長 加藤 芳明 (大成建設)
 委員 家田 学 (竹中工務店)
 河登 健太郎 (竹中工務店)
 山崎 俊一 (ピーディーシステム)
 吉原 和宏 (日建設計)

岐阜部会

部会長 芝川 豊 (ジーツープラン)

三重部会

部会長 藤原 哲弘 (藤原構造建築設計事務所)

北陸部会

部会長 杉山 清久 (北電技術コンサルタント)

静岡部会

部会長 永田 芳博 (永田構造デザイン)

第50回JSCA 中部ゴルフコンペ開催

去る、5月19日(日)春日井カントリークラブにおいて、第50回JSCA中部ゴルフコンペが開催されました。当日は穏やかな天気の中、JSCA中部の正会員、賛助会員合わせて29名の精鋭が参加し、和気あいあいとラウンドを満喫しました。

上位ベスト3の成績は以下の通りです。

優勝 安藤 哲朗 (有アルファプラン)
 準優勝 大谷 智徳 (株南鉄建)
 3 位 内本 英雄 (清水建設株)

準優勝の大谷さんはスコア一的には1位でしたが、初参加のため、規定により繰り上げで安藤さん優勝となりました。なお、安藤さんからは「第50回という長い歴史のある会の記念すべき節目の大会において栄えある優勝が出来たことはこの上もない喜びを感じます」とのコメントを頂いています。

今回、6名の初参加者を迎えましたが、次回は今年の秋に開催

を予定しています。新しい構造設計の仲間を作る気持ちで、ぜひ参加のほどお願いいたします。

